

- ① CRAZY DIAMOND (4:02)
- ② JULIET IN THE BLUES (3:35)
- ③ WINDY HEART IN AFTERGLOW (3:51)
- ④ PIECES OF SUMMER (4:50)
- ⑤ NIGHT CLUBBING (4:25)

## BECAUSE OF YOU

- ⑥ VISITOR (5:00)
- ⑦ EMBRACE HER JEALOUS NIGHT (3:31)
- ⑧ BIRTHDAY (3:56)
- ⑨ POISON or NO. 5 (5:09)
- ⑩ RAIN DANCE (5:46)



**HUMMING BIRD CO., LTD.**

P 1988 HUMMING BIRD CO., LTD.

発売：株式会社 ハミングバード 販売：ビクター音楽産業株式会社

MANUFACTURED BY HUMMING BIRD CO., LTD. TOKYO JAPAN

DISTRIBUTED BY VICTOR MUSICAL INDUSTRIES INC.

WARNING: ALL RIGHTS RESERVED UNAUTHORIZED  
DUPLICATION IS A VIOLATION OF APPLICABLE LAWS.

CRAZY DIAMOND  
JULIET IN THE BLUES  
WINDY HEART IN AFTERGLOW  
PIECES OF SUMMER  
NIGHT CLUBBING



## BECAUSE OF YOU

AMANO SHIGERU

VISITOR  
EMBRACE HER JEALOUS NIGHT  
BIRTHDAY  
POISON or NO. 5  
RAIN DANCE



① 狂ったダイヤモンド

② Julietの憂鬱

③ ピンクの風

④ 夏のかげら

ナイト クラビング

⑤ NIGHT CLUBBING

# BECAUSE OF YOU

AMANO SHIGERU

⑥ VISITOR

⑦ 吐息のジェラシー

⑧ BIRTHDAY

ボワゾン

⑨ POISON or NO. 5

⑩ RAIN DANCE

作詞・作曲・編曲 / 天野滋

## and... Walking Again

*Although it is easy to say about love using fair words,  
If you could keep your love up. You would obediently  
feel that you had spent best life.*

*Eventually. I sing again.*

*Love song for women.*

*October*

*Shigeru Amano*



狂ったダイヤモンド (4:02)

きみはベッドの乱れで  
 昨日の夢を思う  
 誰と僕 比べているの  
 過去に傷ついた心  
 誰も信じない目で  
 安ものの 温もり探した

Oh, Talk to me 汚れた人形 棄てた日はいつ  
 Talk to me おとなの女へ 急ぎ足だった

あ、 きみは 狂ったダイヤモンド  
 情熱 深く刻み込めない

chorus: 憎しみに愛の谷間で  
 永遠に隔り続ける  
 押し寄せる時の激流に  
 壊れ果て 狂ったダイヤモンド  
 願くよー

人はいつの時代にも  
 争いごとを探す  
 草原の雫を忘れて  
 そして宇宙の彼方へ  
 あこがれを飛ばすけど  
 足元の小石につまずく

Oh, Tell me lies 天使の仮面で 愛をわだるの  
 Tell me lies 悲しみを涙に 変えてしまえない

あ、 きみは 狂ったダイヤモンド  
 ひとつの愛じゃ 満たされないの

chorus: 傷つける言葉のナイフ  
 永遠に振りまわすだけ  
 押し寄せる時の激流に  
 壊れ果て 狂ったダイヤモンド  
 願くよー

Julietの憂鬱 (3:35)

Juliet  
 土曜日は みんな帰ったあとの  
 静けさを抱きしめて 泣いていたらしい  
 Juliet  
 ベランダへ 椅子をひとつ運んで  
 月灯り頼りに 小説を読むの

息をするたびに 悲しみに吸い込む  
 センチメンタルな夜が いつも待っている

Juliet, I love you  
 きみの哀しみを見せてくれ  
 Juliet, I love you  
 何も隠さないで

Juliet, Oh Juliet  
 時がすべて変えても 淋しそうな笑顔が  
 僕の心を 捕らえている  
 I'm looking for your love

過ぎてゆく季節 とまどいの青春  
 センチメンタルな夜を いつも待っている

Juliet, I love you  
 僕の生きかたを見てほしい  
 Juliet, I love you  
 ともに夢を見よう

Juliet, Oh Juliet  
 涙ひとすじ落ちる その美しい武器が  
 僕の心を 捕らえている  
 I'm looking for your love

ピンクの風 (3:51)

溜め息をつく黄昏 悲しいほど  
 摩天楼から生まれた ピンクの風

ルームミラーでルーージュを 直してるきみの  
 絡みつくような視線が 僕を悩ませる

Change your heart 引きとめても  
 Change your heart 誰のもとへ  
 何もなかったように くちづけをしたけれど

上手な嘘でかわして 泣き顔も素敵  
 離れられない今だけ 心冷えてるのに

Change your heart 抱きしめても  
 Change your heart 空しいだけ  
 いつかきみのことさえ 思い出せなくなるだろう

引きとめるだけ心は 離れてゆくのに  
 出会いの頃のふたりは もうここにはいない

溜め息がでる黄昏 悲しいほど  
 摩天楼から生まれた ピンクの風

ルームミラーでルーージュを 直してるきみは  
 魅力溢れる自分を 知っている女さ

夏のかげら (4:50)

静かに時を刻み 夏が過ぎてゆく  
 誰もいない避暑地に 紅葉が届く  
 背中を風に押され 黙って歩いた  
 二人は紫色に溶け込む ストレンジャー

日を追うごとに君の肌 白くなってゆく  
 夏の記憶とともに  
 古いシネマで見たような こんな関係は  
 陽射しの中でゆらめき  
 まぼろしと消える

夜空に光る星が ひとすじ流れた  
 願いが遅すぎたよ 悔やんでいた君  
 素足の膝にのせた シルクのドレスに  
 落とした涙は二人の ラスト・シークレット

君が眠ってしまうまで 僕はそばにいて  
 悲しい寝顔 見てる  
 明日の朝はそれぞれの 都合へ戻るだけ  
 君はあの人のために  
 微笑みをそそぐ

今年最後の 虹がふいに  
 雨あがりの 空にかかる

風の冷たさ感じたら 君を忘れよう  
 虹がすぐ消えるように  
 夏のかげらをポケットに 詰め込んでゆこう  
 嬉しかったテーブ置いて

\*君が眠ってしまうまで 僕はそばにいて  
 悲しい寝顔 見てる  
 明日の朝はそれぞれの 都合へ戻るだけ  
 きよならは言わないけど

夜がきみを覚えてゆく  
とても泣らに覚えてゆく  
涙もが昏んな振り返る  
きみは妖しいシンデレラ

Oh Baby イルミネーション  
ひとみの奥で光る  
Oh Baby 手探りで  
きみを知りたい

☆Hold me tight, tonight  
自由すぎても つまらない  
Hold your hand, again  
二人の愛に火をつけて

ドアにメモを差し込んで  
眠い街へと泳ぎだす  
きみは留守の言い訳を  
いつもポケット詰め込んで

Oh, Baby 傷口を  
愛で埋めて欲しい  
Oh, Baby 眩しいね  
朝の街角

★Catch my heart, tonight  
失うものは何もない  
Fall in love with you  
二人の愛に火をつけて

Oh Baby 手のひらで  
涙の粒 集めて  
Oh Baby 気紛れに  
泣いていいから

☆refrain

★refrain

VISITOR (5:00)

鳥が囀き もうすぐ街が動き出す  
朝焼けは 東の空に  
真切に傷つき 空しい気持ちを  
かみしめる 眠れない夜

愛し合ったことも 稲妻のように  
瞬期のきらめきと 消えても  
夢を捨てないで 夢を変えないで  
またすぐに ゼロから始める

僕達は未来という 眩しいステージに立つ  
とまどいの VISITOR

過ぎ去った昨日に 捨てて来たものは  
さよならと 少しの涙  
永遠に続くと思った日々さえ  
かんたんに思い出になる

急ぎ過ぎていた 少年の愛は  
雨がゆくも から回りしだけ  
少女もやがては 涙かを愛して  
行く道を 満ち日が来るだろう

僕達は未来という 眩しいステージに立つ  
胸ふくらむ VISITOR

愛し合ったことも 傷ついたことも  
思い出は遠いほど優しい  
夢を捨てないで 夢を変えないで  
またすぐに ゼロから始める

just visitors

just visitors

吐息のジェラシー (3:31)

どうも本気でのれない  
なぜか夢中になれない  
水着の跡が消えたら  
風はいきなり冷たい

話相手じゃつまらない  
きみのハートが見えない  
優しくされて疑う  
ひとりブルーになるだけ

Face to Face 吐息のジェラシー  
Face to Face アイツを忘れて

You never let me down, ha-han  
I need you I need you  
You never let me down, ha-han  
I want you I want you

燃える空しい炎

TVニュースはやるせない  
どんな不幸が楽しい  
せめて夜が明けるまで  
僕の言葉を信じて

Face to Face 華れるジェラシー  
Face to Face アイツを忘れて

※I never let you down, ha-han  
I need you I need you  
I never let you down, ha-han  
I want you I want you  
燃える空しいジェラシー

You never let me down, ha-han  
You never let me down, ha-han

※refrain

BIRTHDAY (3:56)

気がきいた友達の笑顔に囲まれて  
サラダもワインも揃ったし  
ケーキのローソクを一息に消すパースディ  
ただひとつだけ 君がいない

何から何まで 満たされているつもりでも  
ひとつが足りなくて 不幸せになってゆく

酔いが回りだすと 大声はり上げて  
友達みんなの HAPPY BIRTHDAY TO YOU

※ chorus: La La La Happy birthday to you  
賑やかに BIRTHDAY  
La La La Happy birthday to you  
君がいない BIRTHDAY

君だけ分かるようなジョークをとぼしたり  
野球の話で夜更けまで  
あの頃は夢ばかり 青春はやるせなく  
ただひとつだけ 君がいたよ

何処から何処まで 幸せだと騙をひく  
ひとつが足りなくて 不幸せになってゆく

仕事も波にのり 叶った夢もあるけれど  
ただひとつだけ 君がいない

僕の胸に君よ今 もう一度  
僕の胸に君よ今 もう一度

※refrain

カーテンを彫らませて 闇が訪れる  
きみは指でピアスを揺らした  
星屑が瞬く間に 夜空を飾って  
きみの赤いルージュが切ない

Broken heart 見つめ合うだけ  
Broken heart 戻れないというのに

今夜の香りを きみは決めかねてる  
最後の最後で 僕を繋ぎとめるの  
Lady...

きみだけの罪じゃないと わかっているけど  
僕はきっと許してなかった  
愛されているだけなんて 平穏すぎたね  
きみに少し隙が生まれたの

Broken heart 擦れ違っただけ  
Broken heart 戻れないというのに

からだの重みで きみを覚えている  
最後の最後で 僕を試しているの  
Lady...

優しくピアノに タッチするみたいにと  
びきり素敵な きよならを言うけど

今夜の香りを きみは決めかねてる  
最後の最後で 僕を繋ぎとめるの  
Lady...

### RAIN DANCE (5:46)

Ah— きみは眺めてた レインダンスをずっと夢中で  
Ah— 虚ろな顔は 僕が映らない

Ah— 枝が手を広げ 支える空は重い  
Ah— きみは感じてた 消えそうな愛

僕は過ぎ去った夏に 喉く 叫ぶ 苟立つ

激しい恋に ひととき溺れるだけ  
探す答えは どこにも見えない  
きみは歌って僕を 酔わせてくれた  
素敵な声で...

Ah— 細い糸で 織り返す愛の真似事  
Ah— きみは雨音に あわせて揺れる

僕は混乱の渦に 沈む 迷う 戸惑う

シーツの海を 泳ぐ魚になって  
不思議な夢を 映おうふたり  
寝れたからだ 休める場所がなくて  
さまようばかり・・・  
さまようばかり・・・

# BECAUSE OF YOU

## AMANO SHIGERU

Produced by SHIGERU AMANO  
KANAME KATOH  
SHIGERU AMANO  
Vocal SHIGERU AMANO  
C guitars MASAARI KONDO  
Keyboards ATSUSHI TOKUYA  
Saxophone TAKASHI FURUKAWA  
KAZUHIRO HARA  
Percussion STEVE ETO  
Chorus SHIGERU AMANO  
KIYOSHI HIYAMA  
YASUHIRO KIDO  
JUNKO HIROTANI

Guest Musicians: Guitar SHOZO ISE ❶  
YASUHIRO SUZUKI ❷  
TAKAYUKI HIJIKATA ❸  
Bass KAZUTO HIRAGA ❹  
Sax TOSHIOHKO FURUMURA ❺  
Chorus MOTOTOSHI HOSOTSUBO ❻  
YASUHIRO SUZUKI ❷  
HIROSHI KOIDE ❸  
KAZUYUKI KOMURO ❹

Director AKIHIRO NAKATA  
Recorded & Mixed by SHUN-ICHI KENSAKANAGI  
Additional Engineer OSAMU HIROSE  
YOSHIKATSU TAKATORI  
SEIJI ISHIKAWA  
Assistant Engineer TOSHIMI SANSEKI  
TAKAYOSHI YAMANOUCHI  
NAOMI MATSUO

Mixed by HIROSHI KAWASAKI (JVC)  
Recording Coordinator KOZUO ARAKI (MUSIC LAND)  
Recorded at SUNRISE STUDIO  
SOUND INN STUDIO  
MUSIC INN YAMANAKAKO STUDIO  
Recorded From June 30 To Aug. 11 1984  
Sound Advisor OSAMU TAKAGI (ISHAKING RECORDS INC.)  
Artist Management KEN-ICHI SUEDA (OFFICE SWAT)  
Chief Promoter JUN-ICHI TAKEDA  
YASUHIRO TAKANO  
SHINJI SHIMIZU (OFFICE SWAT)

Visual Staff: Producer MASAHIKO DEKUNE  
Photographer TAKEO OGISO  
Designer MASARU KITASHIRO  
Stylist HAYATO KURATOMI  
Hair & Make up MUTSUO TADOKORO (CODE)  
Hair & Make Assistant JIMMY  
Production Manager MIKA OKAMIYA  
Art Direction & Total Works by BAMBINI Co., Ltd.

Special thanks to YOICHI AIKAWA (SOUND INN STUDIO)  
TAKASHI SASAKI (SUNRISE STUDIO)  
MARUMISA HAYAKAWA (MUSIC INN STUDIO)  
ATSUO INOUE (MUSIC INN YAMANAKAKO STUDIO)  
KEIKO WAKISAKA  
AKASAKA STUDIO

Executive Producer KANAME KATOH  
TOSHIO KUROSAKI (OFFICE SWAT)

SHOZO ISE by the courtesy of SIXTY RECORDS CO., LTD.  
YASUHIRO SUZUKI by the courtesy of TOSHIBA EMI LTD.  
MOTOTOSHI HOSOTSUBO by the courtesy of CRE/MIN RECORDS.





今年の夏は極めて短かった。そして僕は1つのビリオドを打った。  
これまで、いくつか打ったビリオドよりも、今度はよりはっきりしたビリオドだったと思う。

この15年間を振り返ってみると、ツアーとレコーディングと渋谷周辺の風景が、早退りのビデオを観るように思い浮かべることができる。リハーサルから始まって、初日のベルが鳴り、最終日のアンコールの拍手で、またスポットライトの光の渦に迎えられたツアー。僕はホテルのベッドで横になり、酔った身体の中の、心臓から押し出される血の流れを感じながら眠った。気持ちのいい眠りだった。

ツアーが終わると、公園通りの店で薄いコーヒーを飲んで、僕たちだけがわかるジョークで笑い合った。何度も何度も夏が来ては去って行った。新しい車と新しい恋人。つややかなボディが雨風に晒され舞きを失うと同時に、恋人も新しいままではなかった。なぜ、もっとはっきりと心の中を伝えられなかったのか。なぜ、あんなふうに冷たい言葉を投げつけたのか。上質なシルクのシャツでも、ごごおとした肌ざわりの綿のTシャツでも、どちらでも良かったことなのだ。ささいなことがきっかけで大きなものを失う——そのくり返しだった。風にざわめく木の葉の音をすり抜けてくる眩しい日差しに目を細めながら、あのままずっとみんな一緒に、どこまでも並んでゆけると思い込んでいたのだ。

思えば、長い距離を走るマラソンのスタートのように、それほどの意気込みはなしに僕はゆっくり走りだした。不安や苛立ち、そして優しさ。スタジオに入ってマルチに音を重ねてゆくことが、その時の僕のエネルギーをぶつける唯一の作業だった。どのシーンもメロディーになると穏やかになる。詞の創作に苦しんだ夜のことは忘れてしまう。鳥が次々とたまごを産むように形にして、気がつくつとすでにレコードショップに並列していた。20枚という歌のアルバムが残ったのだ。

そして、僕はやっと一人になった。自分でも考えもしなかった不思議な気分だ。僕は今、未来というステージに立つVISITORとして、次に起こるであろう予想もつかない出来事を描いて、胸をふくらませている。

1988年10月 天野 滋